

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターかわなべ

作成者: 相川 真奈美

作成日: R5年9月11日

運営推進会議における評価実施日: 2023/12/18

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A	事業所独自の理念を掲げる日々のケアに活かせるよう朝礼で確認できている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	C	地域ケア会議等参加する機会がなく同社事業所との関わりが濃くなっている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	C	集まった運営推進会議が出来ていない		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	D	市町村担当との積極的な関わりはない。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	身体拘束をせずにすむ方法を模索し実践できている。	A	介護保険法の基準に基づいて適切なケアをしてもらえます。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	C	何気ない言動も虐待に当たらないか確認する必要がある。	C	介護の際の声かけなどの注意が必要です。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	C	自立支援事業の研修は行っていない 成年後見制度については家族様より相談があった際は助言できている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	分かりやすい言葉で説明し疑問点はないか要所がないかお聞きするようにしている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	様子報告を定期的に行いその際に何か要望がないかお聞きするようにしている。	A	会議等で利用者様家族様から意見を聞いてもらえます。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	MTの際に確認するようにしている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	定期的に個別面談の機会を設けている。	B	自己評価の通りです。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	日々の業務のなかで助言している。	A	職員研修を実施し、日々の業務と合わせ取り組んでもらえます。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	D	交流の機会を持っていない。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	出来る人には家事をおねがいでいる人が固定されがち。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	家族以外にも面会に来てもらえるように声かけをしている。		

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターかねなべ

作成者: 相川 真奈美

作成日: R5年9月11日

運営推進会議における評価実施日: 2023/12/18

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 外部評価	記述
<b>II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	入居時に家族にできる限り聞き取りをおこない本人にも意見をお聞きするようになっている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	職員全員、家族、関係者から気付きや意見聞く機会を設け皆の思いを反映したプランを作成している。本人にも気持ちを確認している。	A	自己評価の通りです。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	日々の申し送りや情報を共有しケアプランの変更が必要かどうかモニタリングできている。	A	自己評価の通りです。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A	本人の思いや願いが叶えられる支援の実施		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	D	地域資源の活用は出来ていない。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	往診医で診てもらいたい専門科で診てもらう必要がある場合は家族に報告し受診の許可を得ている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	病院の地域連携室への挨拶、入退院時の情報共有。	A	早期に退院し元の生活に戻って頂くために、適宜病院との連携は必要です。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B	入居時にある程度の意思確認は取るようにしている。体調不良から予後がよくないと予想される方には主治医から予後経過の確認を取り御家族に説明をするようにしている。	B	自己評価の通りです。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A	急変時の時の対応についてマニュアルを確認するようにしている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A	定期的な防災訓練を実施している。	B	自然災害はいつ起こるか分かりませんので有年に備えていただきたいと思います。

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターかねなべ

作成者: 相川 真奈美

作成日: R5年9月11日

運営推進会議における評価実施日: 2023/12/18

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	自尊心を傷つけない声かけを心がけている。	B	親しき間柄でも一方的な指示になっていないかその人が不快に思っていないか時には省りみることも大事です。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	職員優先のケアになっていないかMTの際に振り返りができるようにしている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	C	食後の食器拭きのみ。	B	重度の方も増えています、皆さんが楽しく食事ができるように、できることはして頂いて下さい。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	それぞれにあった食事形態の提供。水分量の把握。足りていないひとは水分促しの声かけ。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B	毎食後口をゆすいでもらい、訪問歯科で状態を診て貰っている。	B	自己評価の通りです。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	排泄のタイミングを把握し定期的なトイレ誘導をしている。極力リハビリパンツやパットの使用量を減らせるように取り組んでいる。	A	自己評価の通りです。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	A	無理強いはせずにかつ定期的に入浴清潔が保てるように声かけを行っている。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	休みたいタイミングで休んで頂けるように本人のペースに任せている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	服薬前に本人と一緒に薬の確認を行い、服薬内容に変更があれば申し送りや情報共有している。	A	自己評価の通りです。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A	夜割を感じられるように出来る人には家事のお手伝いを、字を読むのが好きな人には本や新聞を、歩きたい人には外気浴をしてもらっている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A	この数年、外出の機会が持てなかったが解除になって御家族と外出される機会が再開された。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	B	本人が使えるお金は事業所でお預かりしている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A	希望があれば電話できる状態にある。個人で携帯を持っている方もおられる。かけ方がわからない時はかけられるように支援している。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	危険がないように環境整備を行っている。季節を感じていただける展示物を展示している。利用者間でトラブルに発展しそうな物事があった時は職員が回避できるようにしている。	A	共用の空間はゆったりと過ごしやすいスペースであると感じました。

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターかねなべ

作成者: 相川 真奈美

作成日: R5年9月11日

運営推進会議における評価実施日: 2023/12/18

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
<b>IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)</b>						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A	ご自身のペースで過ごして頂いている。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	これまでの生活習慣を継続できるように配慮している。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	日々の状況を職員間、主治医との連携共有ができています。	A	日頃から医療との連携を良くしておられます。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A	ある程度本人のペースで過ごしている。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	B	御家族が持ってこられた物を危険がないように配慮している。	B	自己評価の通りです。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A	近所の外出は再開できています。行事も徐々に再開されてきているので参加予定。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	B	役割を感じて頂くため分担しながら行っている。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場を日々の暮らしの中で得ることができています	A	1F2Fの方ともお話やレクリエーションができる環境作りをしている。	A	レクリエーションの参加の促しや行事の開催など利用者様が生き生きと活動できる環境作りに努めておられます。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	B	ふれあい喫茶への参加再開予定。		
49	総合	本人は、このGHIにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	A	1F2Fの交流を持ち、いろんな方との会話やレクリエーションを楽しみながら過ごして頂いている。	A	自己評価の通りです。

総評

利用者様の生活の質を高める為お一人お一人への働き掛けイベントの開催や行事への参加等に尽力しておられます。大変結構かと存じます。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

特に指摘することはありません。

参加者サイン欄

いつもお世話になっております。新型コロナウイルス、インフルエンザ等感染症が拡大しているようですが、入居者様、職員様共に感染予防に注意して頂きご健勝にお過ごし下さいませ。

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターかねほ

作成者: 相川 真奈美

作成日: R5年9月11日

運営推進会議における評価実施日: 2023/12/18

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述